

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	1 4 1 4 4 1 0
施設名（園名等）	徳風幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現

<テーマの設定理由>

本園は、子どもたちの興味、関心を重視し、「子ども主体」の教育を日々実践している。子どもたちは「おままごと」や「ヒーローごっこ」「お姫様ごっこ」など身近な大人や物語の主人公になりきる遊びを日頃から楽しんでおり、自分自身を自由に表現する姿が見受けられた。また、遊びの中で友だちと役割を分担しながら活動が展開されることで、自分の思いや考えを言葉で伝える経験が育まれていると感じる。仲間と協力し、一つの目標に向かってやり遂げる達成感と一人ひとりの好奇心や探求心をより一層深めるため、物的環境を整えることで、さらに世界観を広げ、感性を磨き自由な自己表現を促進することを目的として本テーマを設定した。

### 2. 活動スケジュール

全園児を対象として表現の世界を存分に楽しめるように設定した。

- 5月～9月： 「お店屋さんごっこ」に向けた活動において、生活の中で身の回りの事に関心を持ち、お店屋さんになりきり、必要な道具や準備、店の設営、言葉のやり取りの表現を楽しむ。
- 10月～1月： 「生活発表会」に向けた活動において、お話や絵本の世界を表現する中で劇遊びの楽しさを知り、役になりきって身体表現を楽しみ、自分たちで協力して進めていく面白さと様々な表現方法を味わう。
- その他、年間を通して、遊びの中で子どもたちが自発的に表現活動を発展し、好奇心や探求心を深める。

### (活動のために準備した素材や道具、環境の設定)

- ・各種画用紙等の画材道具… お店屋さんを使用する看板や品物、劇で使用する大道具や小道具など、より多くの道具を準備し、子どもたちが創意工夫しながらイメージを形にできるように準備する。
- ・スピーカー等の音響… 各クラスにスピーカーを設置し、いつでも場の雰囲気を盛り上げるBGMや劇中曲を流せる環境とする。
- ・パーテーション… 記録した写真を貼り、保護者にドキュメンテーションとして共有。その他劇の場面転換、看板等に使用。
- ・絵本… 導入として読み聞かせや、子どもたちがいつでも手に取り繰り返し読めるような場所に置き、お話の世界に入り込めるようにした。発表会終了後も、様々なお話の絵本を準備し、さらに表現活動が継続するよう準備する。
- ・ベンチ、マット、アクティブプレイスポット、ちょうちん、ポールスタンド、ガチャキューブ… お店さんの店作りや会場の雰囲気作りとして環境設定する。
- ・衣装、布、フェルト、コンテナ… コンテナに衣装を種類別に収納し、役になりきるための小道具として準備する。
- ・パソコン、周辺器具… 記録として活動中の子どもたちを撮影。クラスだよりとして配信。教員同士が振り返りとして画像を共有するとともに子どもたちも劇の練習を客観的に見る媒体として役立てる。

### (活動の内容)

年間を通じて、子どもたちが自由に表現できるように様々な活動を実施した。

その中でも、「お店屋さんごっこ」と「生活発表会(劇)」を中心に取り組む。

#### ●イメージを膨らませる(感性をみがく)

紙芝居や絵本、図鑑などを通じて、子どもたちの想像力を広げる。

#### ●話し合いの場の設置(会話力の強化)

それぞれの考えや思いを共有する場を設け、子どもたちが主体的に進めることを促す。

#### ●役割分担の決定(責任感の強化)

小グループでの活動を取り入れ、役割や分担を決めることで意欲的に活動する。

#### ●製作活動の協力(協調性を育む)

必要なものを考え、協力しながら製作活動に取り組む。

#### ●繰り返しの楽しみ(自信をつける)

日常生活や遊びの中で繰り返し楽しむことで、経験を深める。

#### ●自己表現の場(達成感を味わう)

発表の場で自由に自己表現をし、みんなで一つの作品を作り上げる達成感を味わう。

#### ●他学年との交流(異年齢活動を強化)

他の学年と交流し、共に活動することで刺激や学びの機会を得る。

#### ●表現の世界(自信と充実感の獲得)

発表会を通じて保護者に見てもらふことで認められたり褒められたりする経験が大きな自信を得て、表現することの充実感を味わう。

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

##### (活動中に見られた子どもの姿、教諭との関わり方)

##### <お店屋さんごっこ>

「どんなお店に変身しようか」と提案すると、各学年からユニークなアイデアが寄せられた。子どもたちは、自らの発想やイメージを形にするために、どのような準備が必要で、どのようなコミュニケーションが場に合っているかと日常生活での経験を活かし言葉を選び、想像力を働かせて探求を楽しんでいた。

店員役は「いらっしゃいませー」と元気よく迎えながら、自分たちの手作りの店に客が来るのを心待ちにする姿や、「ありがとう」と言われた際に見せる照れた笑顔が実に印象的だった。回を重ねるごとに自信を深め、「品物が少なくなってきたから持ってくるね」「こっち、お願いね」「交代しよう」と、それぞれの役割を果たしつつ、お店同士で互いに気付きを共有し、修正を行う姿勢に頼もしさを感じた。また、異年齢の交流の深まりにより、刺激や発見につながった。



##### <生活発表会・劇>

身近な題材を基に、生活や遊びの中で劇遊びを楽しむことからスタートした。歌やリズムに合わせた身体表現や、登場する動物や人物の動きや話し方を自分たちのスタイルで演じる活動は、初めは恥ずかしさを感じる子どももいたが、取り組みを重ねるうちに、友達と一緒に音楽に合わせて身体を動かす心地よさを体感し、「今日の〇〇くん、かっこよかったよ」と友達に認められることで、徐々に自信を深めていった。練習後の話し合いでは、子どもたちから「もう少しゆっくりセリフを言った方がいいんじゃない?」といった提案があり、教員は子どもたちの改善点やアイデアをまとめ次回の練習の方向性を調整していくようにした。このプロセスがきっかけとなり、子どもたちは自らの演目に対してより主体的に取り組むようになっていった。その過程で、どのような演出が必要かを考え、大道具や小道具、衣装などの環境設定を探求する楽しさも見出すようになる。

生活発表会の後も、役や衣装を交換しながら「もう1回やりたい」と繰り返し楽しむ姿が見られ、他の学年の発表から刺激を受けて新たな表現方法を獲得する様子が観察された。



#### 4. 振り返り〈振り返りによって得た先生の気づき〉

●年間を通じて、時間をかけて取り組んだことにより、以下の気づきを得た。

- ・異年齢活動を強化することで社会性、協調性が強化される
- ・緻密な計画性が必要であること
- ・子どもたちの会話力が強化された
- ・子どもの感性と共に教員の感性を磨く必要性を感じた
- ・子どもたちを注意深く観察する重要性に気付く

子どもたち一人ひとりが楽しみながら探求したことを自由に表現し、その中での気づきや、考えたことを互いに伝え合ったり、表現方法を認め合ったり、共感し合う姿が見受けられた。特に、子どもたち自身の「やってみたい!」という意欲が、最も大きな学びを引き出していたと感じた。回を重ねる度に自信をつけ、生き生きと表現する姿に出会うことは教員にとっても喜びや発見が多くあった。

常に教員が介入するのではなく、目の前の子どもたちの姿をよく観察し、一人ひとりに応じた声掛けや支援を行い、子どもたちの思いを尊重することの重要性と、適切な環境設定の必要性を改めて実感した。今後も引き続き、子どもたちの「見たい」、「知りたい」、「やってみたい」という探究活動を応援し、充実させていきたい。